

【生活支援】

外国人被災者を対象とした生活支援について

岡崎市市民生活部防災課

ベストを着用した通訳者

岡崎市では約1万人の在留外国人がおり、ブラジルや中国をはじめ多数の国籍の方が暮らしている。

災害が発生すると、自宅での生活が困難な方は避難所で生活を送ることになるが、被災者の中には当然、日本語が話せないもしくは苦手とする外国人もいることが想定されている。避難所での生活は、災害発生後の混乱の中で過ごさなければならず、様々な情報が飛び交う。救援物資の配給だったり、ボランティアの派遣であったりと非日常的な情報ばかりで、日本語がわからない外国人にとってはそのような状況が不安やストレスが溜まる原因となってしまう。

そこで岡崎市では外国人被災者を支援するために「災害時通訳ボランティア」の制度を整備している。

「災害時通訳ボランティア」は岡崎市に在住で、ボランティア登録されている一般市民の方である。活動内容は、震度5強以上の地震発生時などに図書館交流プラザりぶら内に災害多言語支援センターが立ち上がる。そこに参集して頂き災害に関する情報を翻訳したり、日本語がわからず困っている外国人被災者がいる避難所を訪問し、通訳対応を行う。



平成 29 年度岡崎市地域総合防災訓練での
災害時通訳ボランティア訓練の様子

避難所での活動時にはベストを着用する。何故ベストを着用して活動をするのかというと、そのベストの前面と背面にはA4の紙が差し込めるようになっており、そこに自分は通訳者であること、会話可能な言語を表記する。そうすると、一目で通訳者ということが分かり、避難所で生活をする被災者に周知することができ、外国人被災者も簡単に理解することができる。また、ベストを着用し、身分を明かすことで、相手も受け入れやすく話しかけやすいというメリットが生まれる。



ベストを着用した通訳者（イメージ）

災害時通訳ボランティアを養成するための講座も開催しており、ボランティアに登録済みの方とそうでない方を分けて行っている。そこでは在住外国人に関する基礎知識や災害時における翻訳、通訳対応を学ぶことができるようになっている。また地域の方々にその存在を知ってもらえるように、岡崎市地域総合防災訓練への参加も呼び掛けている。

今後もこのような取り組みを続けていき、災害発生時に外国人被災者が孤立してしまわないよう、支援ができるようにしていきたいと思う。